福島支部会報４０号

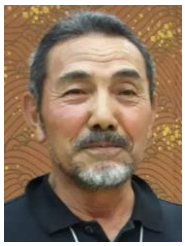
日本山岳会福島支部

（令和4年9月～12月の活動）

令和５年(2023 年) １月１５日発行

公益社団法人日本山岳会福島支部
支部長　渡 部 展 雄
事務局 〒960-8133 福島市南向台３丁目 13-9
佐 久 間　隆　夫　　気 付
電 話：024-521-9561 携 帯：090-2959-4863
e-mail　fks@jac.or.jp

渡部展雄支部長 新年のあいさつ



「一年の計は元旦にあり」。JAC 福島支部の皆様、令和５年新春はそれぞれのご決意でお迎えされたことと思います。

顧みますと３年越しの新型コロナウイルス感染の勢いがこの師走に第８波となって押し寄せ、その収束さえも見通せない状況下にあります。このような中、JAC 創立 120 周年記念事業「山岳古道 120 選」について当支部は８つの山岳古道を選択、会員皆様と一丸となって取組んでまいりました。山岳古道は先人の歩んでこられた道であり、我々が後世に伝え継承すべき文化そのものと確信します。その中にあって、10 月 16 日、副支部長菊池道彦会員突然の訃報は信じられませんでした。八十里越え、六十里越え、太閤の道しかり、菊池副支部長の古道調査に懸けてこられた高潔な遺志を受け継ぎながら、本年もまた会員皆様のお力添えを切にお願いし、あわせてご多幸、ご健康をお祈りいたします。

支部活動報告(2022 年 10 月～12 月)

公 益 事 業 報 告

山岳古道調査･10月～12月の活動

12 月 16 日付で福島支部担当の山岳古道８カ所
①八十里越え　②六十里越え ③会津中街道 大峠 ④沼田・会津街道 尾瀬越え　⑤勢至堂峠太閤道　⑥会津街道 諏訪峠東松峠 車峠 鳥井峠 ⑦飯豊山　⑧万世大路 栗子峠
の８か所が最終決定しました。

さらにコラムとして「会津西街道 山王峠」が追加されることになった。

10/21(金) 太閤道　勢至堂峠現地調査～４名参加

「山岳古道 120 選」が最終決定しないままの 10 月 21 日、その５日前(10/16)に接した菊池副支部長の訃報を胸に、第２回目の現地調査を実施した。

勢至堂峠は、故菊池副支部長が選定への道を開いた古道で、その思いが本部 PT を動かし 12 月 16 日付で選ばれたと確信できる。さらに、地元郡山市湖南町の「史談会」・金田榮氏が孤軍奮闘でその整備と保存活動に当たってきた峠として、群雄割拠の戦国時代に思いを馳せながら調査実施した。同峠は須賀川と郡山市の境界を跨ぐ約 4ｋｍの中に、石畳、掘割、切通しなどの遺構も見られた。

現在の勢至堂トンネル長沼町側入口付近の切通し

実施者：大島、小林、渡部、佐久間、金田榮(史談会)

伊達政宗が太閤秀吉に命じられ整備した三間幅の峠道

峠の名水「殿様清水」

湖南町勢至堂トンネル入口真上が古道

12/16(金) 須賀川市役所等への説明～３名参加

12 月 16 日(金)午後、会津方部大雪警報の中、須賀川市役所観光交流課を訪問、経過説明と協力を要請した。

７月調査で勢至堂集落(旧宿場)住民から「殿様清水に嘗て大勢の人が押し掛け村の安寧が乱された。古道復活には反対する」との声が寄せられており、今回は JAC 福島支部の方針を須賀川市長へ報告してもらうよう合わせて要請した。～須賀川市長からは概ね了解の回答を得た。

同日 15 時 30 分から会津若松市湊町の「みんなと湊まちづくりﾈｯﾄﾜｰｸ」事務局鈴木隆良氏と大竹洋一氏を訪ね、太閤の道延長としての「背炙峠」調査入山(令和５年５月)の協力を要請。**実施者：大島、渡部、佐久間**

「鉄滓」は鉱石から鉄を精錬する際、溶けて分離した鉄以外の鉱石の成分。

面談の中で大竹氏は「湊町から多くの鉄滓(てっさい)が出土しているが、伊達政宗は高度な会津の製鉄技術がほしくて攻め入り、それが秀吉の逆鱗に触れ奥州仕置きにつながった。と戦国歴史を披瀝。

10/29(土) 六十里越え現地調査～6 名参加

10 月 29(土)10:00 から「六十里越え明治新道コース」の現地調査を実施した。令和 4 年２月、只見町国道 252 号線「あいよし橋」が浅草岳で発生した雪崩で一挙に崩壊したのに伴い、通行可能な旧橋から先の「明治新道」に入山。東京電力のﾒﾝﾃﾅﾝｽ道と重複している新道を新潟県境方面に向け調査開始したが、約２時間後にみぞれ交じりの悪天候に見舞われ中途で断念。

午後から新潟県側浅草岳登山口の入広瀬・大白川に移

動、翌日の「八十里越え」調査で入山するルートの下調べなど実施、その後民宿移動（泊）

長谷部、渡部、佐久間、幕田、鈴木(弘)、鈴木(嘉)

国道 252 号線あいよし橋の入山

六十里越え明治新道

ホッとするひと時、でも厳しい明日が待ってる

10/30(日) 八十里越え現地調査～５参加

翌 10 月 30 日(日)午前 5 時宿所発で「八十里越え・天保古道」の調査登山実施。八十里越え実査は令和３年 10 月と令和４年６月に続き３回目の入山。令和３年 10 月は入叶津浅草岳登山口から入山するも雨のため中途撤退。

さらに令和４年６月残雪期の調査入山も天候に恵まれず悪戦苦闘の末、大三本沢手前でタイムアップとなり明治新道経由で引き返した。天保古道に熟知した長谷部、鈴木(嘉)会員をしてなお完登できなかった経緯がある。

今回は新潟県旧入広瀬村・大白川から八十里越え古道へのアクセス林道を車で登り、ぼろ沢から木の根峠の天保古道に出て以後藪漕ぎの連続となり～大三本沢のエスケープルートから明治新道に抜けて大麻平まで下山。JAC 入会後初の山行となった鈴木弘晃氏は疲労困憊の下山となった。ご苦労様でした。

入山者：長谷部忠夫、鈴木弘晃、鈴木嘉津雄
サポート：渡部、佐久間

林道最終地点で記念撮影

木の根峠　手前が只見町

木の根峠茶屋(菅家誠也氏所蔵)

深い藪の天保古道

公益･支援活動　10月～12月

南会津・斉藤山ふれあい登山支援～8 名参加

10/16(日)JAC 福島支部が後援事業として取り組んでいる南会津町長野地区主催「斉藤山（標高 1,264m）ふれあい登山(総参加者数 350 人)」に支部から８名が参加。

コロナ禍の影響で３年ぶりの開催となったが、主催者から、「ふれあい登山に引き続き支援(後援継続)してほしい。」旨の要請がなされた。下山後は、5 年前に記念植樹した「ﾔﾏｻﾞｸﾗ」の生育状況を確認。

三瓶恵子、佐久間(隆)、三浦幸浩　増子(非会員・郡山)

体力的に不安を抱えた４名が１０月に全線再開通した「JR 只見線」沿線のハイキングを楽しんだ。

渡部、石井洋子、佐藤憲子、熊谷鶴三

※「斉藤山ふれあい登山」に関しては、12/3 開催の年次晩餐会席上、本部副会長より「斉藤山には何人くらいの参加者がありますか？」と直接声掛けがあり、本部でも関心事項としてとらえていることがうかがわれた。

後方にそびえる齋藤山

山頂で記念撮影

JA 会津川口駅近く「大志地区」をバックに記念写真

共益活動　10月～12月

月例山行　11/12 霊山登山と懇親の夕べ～11 名参加

奇岩と紅葉の登山道

吾妻、安達太良連峰の遠望

11 月 12 日(土)、錦秋の霊山で月例山行。８名参加

麓の広葉樹は散り始め、霊山の岩峰も冬枯れの景色となりつつある中、晴天無風絶好の登山日和となった。

下山後は「青柳山荘」にて懇親会を実施、秋の夜長を楽しみ、22:00 頃就寝。以下は山行記録

8:45 湧水の里集合・登山口出発～

カエデ系紅葉はまだ鮮やかに残り、木洩れ陽日のなかを進み尾根に差し掛かると吾妻連峰・安達太良山など 360 度の眺望がひらけ　鷲岩手前急登休憩。

10:30　日枝神社到着、霊山寺跡まで足を伸ばす。

まゆみの木のピンクの実が落葉の中に彩りを添える。

11:00　主稜線に戻り霊山城跡～11:40 霊山城跡着、佐藤顧問と合流、昼食～12:30　霊山城跡出発。護摩壇経由で下山開始～14:10　霊山こどもの村駐車場着

青柳山荘での懇親会

「青柳山荘」は霊山こどもの村入口から300mの所に建つ山小屋風の宿泊施設で、電気、水道・台所、LPガス、トイレ、薪ストーブ等が完備。所有者の青柳勲会員が管理し、JAC11月号機関紙「山」に掲載・紹介されている。

参加者（順不同）～佐藤(一)　青柳　渡部　三瓶恵子
石井洋子　熊谷(鶴)　佐藤憲子、佐久間隆夫

令和４年度年次晩餐会～４名参加

12/3(土)新宿京王ﾌﾟﾗｻﾞﾎﾃﾙで年次晩餐会が開かれ、支部から４名が出席。

JAC 特別会員である天皇陛下御列席についての本部コメントもなく、各種表彰、新入会員紹介・代表挨拶のあと参加者 400 名が各々懇談しただけで盛り上がりのない晩餐会となった。　左から　大島、渡部、佐久間、幕田会員

個人山行　10月～12月

①10/16　会津駒ケ岳登山　高田雅雄会員と家族

１０月１６日（日）桧枝岐村「会津駒ケ岳」山頂からの画像を紹介します。支部会員高田雅雄さん親子が滝沢登山口から駒大池、駒山頂、中門岳を往復。秋たけなわの景色を満喫しました。

駒大池と山頂

駒山頂

中門岳大池と遠望の平が岳

② 11/17～19　燕岳登山　佐久間、幕田、館野(非会員)

11/17(木)～19(金)までの計画で入山。

登山初日(11/17)は中房温泉から合戦尾根を登り、燕山荘泊。２日目(11/18)燕山荘を拠点に、大天井(おてんしょ)岳と燕岳を目指したが、大天井への稜線は腰までのラッセルと不安定な雪により登頂を断念。燕山荘まで戻ったあと燕岳を往復、同所泊。翌 11/19 下山、帰宅。

48 年前の夏山登山以来半世紀ぶりに訪れた新雪の燕岳は、想像以上の姿で歓迎してくれた。山頂からは常念、槍、穂高、後立山(劔・立山）、八ヶ岳・富士山、南アルプス、鷲羽・水晶岳など 360 度の絶景を楽しむことができた。そんな中、完全に冬毛になり切れない雷鳥とも偶然出会えた新雪期の燕岳登山であった。佐久間隆夫記

合戦尾根からの眺め

右奥は槍の穂先

燕山荘前で

ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞﾀﾞｽﾄの朝焼け

燕岳山頂

大天井岳の稜線とその奥の槍ヶ岳

事務局からのお知らせ

1　支部役員会開催～12 名出席

11 月 27 日(日)13:30 から福島市民会館４F で第２回支部役員会を開催、令和４年度上半期の総括と下半期に向けた課題と活動について協議。コロナ禍が収束しない現状の中、現状を判断しつつ年間計画実施することを申し合わせ。～支部新年会は中止の方向

2　支部連絡会議開催

12 月 3 日(土)「年次晩餐会(京王プラザホテル)」に合わせて 10:00 から「令和４年度支部連絡会議」を開催(渡部、佐久間出席)。

協議内容は①組織の若返り ②先進支部に学ぶ事例の発表 ③山岳古道調査等であり、本部の一方通行的な内容で終了。

3　「第 36 回東北・北海道地区集会」の開催予定

青森支部が創立 30 周年を迎えることに伴い
「第 36 回東北・北海道地区集会」
を下記日程で開催することを決定した。

日時：令和5年７月１日(土)～2 日(日)
場所：青森県八戸市柏崎１丁目 6-6 八戸ﾌﾟﾗｻﾞﾎﾃﾙ

同集会は３年間未開催、今回は参加する旨を回答した。

会　員　訃　報

日本山岳会 福島支部 副支部長
菊 池 道 彦 様　８１歳

黒部下の廊下にて

会員から「きぐじい」の愛称で呼ばれていた

副支部長　菊 池 道 彦 様は 10 月 16 日病気療養中のところ薬効の甲斐及ばずご逝去されました。

謹んで哀悼の意を表します。

菊池様は、2012(平成 24)年４月、この年福島支部が創立 65 周年記念として取り組んだ「パキスタン６千m未踏峰登山」を機に入会され、学術隊員としてカラコルムの地でご活躍されました。帰国後は支部活動に精力的に参画され、５年前から受け継いだ副支部長として支部発展に尽力されてきました。がさつな山仲間の中にあってなお、知的で物知り、適切な判断力で支部を牽引中のところでした。特に「山岳古道 120 選」、中でも勢至堂峠、八十里越については信念揺るがざるものがあり、その完成を心待ちにしていたことを想うと無念というほかありません。合 掌

ＪＡＣ福島支部アーカイブス

「墜ちるなら富山県側へ」。山男たちにひそかに語られてきた言葉。27年前の平成6年9月下旬、谷口隊長率いる富山県警山岳警備隊の活動拠点立山で開催の「山岳遭難救助訓練」に参加した体験記「その4」です。　渡部展雄　記

訓練残り3日間は室堂にある自然保護センターを拠点に、各担当先生の指導で立山、剣岳一帯を歩き回った。

訓練５日目（9月30日）

早朝大型バスで「文登研」を出発。道すがら引率ガイド役の清水先生が、「板倉勝宣が槙有恒(日本山岳会長)らと冬の立山スキー登山で遭難死した場所」のことや、「雪の大谷」などを解説してくれているうち午前9時半室堂「自然保護センター」着。ここが後半の訓練拠点となる。

準備を整え、午前10時、冷たい雨が横なぐりに吹きつける中、雄山、別山、内蔵助平などを回り、三つの山小屋にも立ち寄り、歓迎された。

縦走登山2日目（10月１　日）快晴

午前七時出発。剱岳を北西に仰ぎながら奥大日岳の登山道を外れ、警備隊専用道を飛ぶように走った。夕めしの後、谷口隊長の突然の指示で夜間救助訓練実施。稲葉先生を遭難者とし、2、4、7班が交替で遭難者を背負って搬送。真っ暗な登山道での救助技術を約2時間繰り返した。

急峻な登山道を竜王山々頂上まで担ぎ上げ、下ろすことからかなりハードな訓練となる。

午後9時ころ我々が下山中、ヘッドランプの明かりを揺らしながら登ってくる一団と出会う。それは剱岳源次郎尾根でのビバークに失敗？し、浄土山々頂に移動中の3班6人で、すれ違い様に見ると何とも淋しげであった。この夜は、もう一つアクシデントがあった。剣岳を下山中の6班員の一人が古傷の左膝靭帯を痛め、これを研修生で救助した。負傷者は柔道特練員で90キロg以上もあり、翌朝は足を引きずりながら下を向いていた。いずれにしても、谷口隊長自身「これが本番だ」と訓練に喝を入れる意味で急遽実行に移された次第である。

縦走登山3日目（10月２日）

昨夜の訓練終了後、清水先生が「明日は剱往復と伝えてきた。午前6時出発。快晴の中、剱岳山頂午前10時20分着。昼めしの後、同じ道を引き返し午後4時宿舎着。訓練日程をすべて消化し、研修生一同大いに満足する。

夕食近くになり「本番」の一報が飛び込んで来た。清水先生はじめ指導に当たった警備隊員は直ちに漆黒の黒部谷に出動し、その夜のうち遭難者を無事救出したと聞かされたのは翌朝のこと。研修の最後にその総決算として諸先生方が身をもって救助現場の厳しさを示してくれた。

清水先生には御礼の言葉も言えずに富山を後にしてしまい、今でも心残りとなっている。

先生は寡黙な方で、余計なことは話さない。反面少ない言葉の中にやさしい心根が見て取れた。どの山小屋に立ち寄っても小屋主人や従業員は「清水さんご苦労様」と大歓迎してくれた。剱岳山頂　で「あこがれの山に登れたのも先生のお陰です。」と礼を述べたとき、何気なく「いや、自分の足で登ったのですから」と控え目に話してくれた態度。なぜかその一言で高まる感情　を押えられなくなった自分。

剱沢の警備派出所前で休憩した時、「私はこんなこと(山岳警備隊)しかできんのです。泥棒をつかまえることも、交通事故を処理することもできんので、こんなことやってるもんだで。」と笑いながら語っていた。五年間この派出所に常駐していたということもあり、ここでの思い出話になるとめずらしく多弁になった。～以下は関西なまりの富山弁で

「私ら山に入ると減多に酒は飲まんがですが、たまに飲むときはキャラメルとかチョコレートをツマミにしとるがです。ジャーキーとかチーズも持っとるがに、それを食ってしまって後で大変な目に遭ったがです。云々、、、、」と。

ビバーク続きの救助現場では、非常食が命の次に大事なのだ。これ以上は言わずもがな。こういう先生に7日間教えていただいたことを誇りに思っている。

研修を終えて

若い研修生の足手まといとなりながらも、年齢のハンディを気力で乗り切り無事終了することができた。反面、これからが大変だとも感じている。なぜなら、研修の受けっ放しは責任放棄になるからだ。平成6年2月11日、吾妻連峰でスキー登山中の七人パーティーが遭難し、うち5人が死亡するという悲劇が起こったのは記憶に新しい。だからと言って自分にできることは何もない。あるとすれば、この研修で私が出会った「ピッケルを持ったお巡りさん」たちがいるということ。代償を求めず、ひたすら活躍する男たちがいるということ。そこには人間を魅了してやまない素晴らしい自然があることを知ってもらうことだと思っている。とくに若い警察官の中から山に対する思いの芽が生まれることを望む。その芽を大きく育てるための橋渡しをすることが中高年警察官の責任と思っている。

剱、また来るぞー

訓練最終日は快晴。室堂から剱山頂往復。後方正面の山は一服剱、前剱。その奥が早月尾根・カニのはさみと剱岳。
左から渡部、織原(警視庁)、中村(北海道警)、森本(和歌山県警)、小林(山梨県警、現南アルプス SL)、中山(青森県警)、清水(富山県警山岳警備隊)の面々

追悼　われわれ２班の指導担当者であった富山県警山岳警備隊清水正雄氏は、平成２８年、突然の心臓疾患で急逝（享年６４歳）されました。合　掌

カニのタテバイて(清水先生撮影)

ヒマラヤ8千m峰登頂の稲葉先生を背負って夜間救助訓練

山下まり子会員の訃報に接し

令和４年１０月号の会報「山」によると、山下まり子会員（山研委員）が７月下旬に剱岳で遭難死されました。以前山研でご一緒し、楽しい一時を過ごした方だけに残念でなりません。当時の様子を書いて頂いた「さんけんブログ」を紹介し、亡き山下会員のご冥福をお祈り申し上げます。

合掌　　令和４年１１月１日　福島支部顧問　佐藤一夫

2013 年 10 月 7 日　　「さんけんブログ」
福島支部の鐘、上高地に響け！

去る１０月１、２日、福島支部の佐藤さんご一行にご利用いただきました。皆さんで２日に「さんけん」から焼岳登山を楽しまれました。当初は上高地からのピストンの計画でしたが、あまりに紅葉が綺麗なので中の湯に下山し、「さんけん」に戻られたとのことです。中の湯側は樹林の比較的なだらかな登山道ですので、北と南で異なった雰囲気の焼岳を満喫していただけたと思います。夜は皆さんご満悦で、歌あり、踊りありで楽しく過ごされていました。またまた、ちゃっかり、見習い山研委員の山下もその輪に混ぜていただきました！！　また、メンバーのおひとり、伊藤さんのお父様（伊藤彌十郎さん）は福島支部初代支部長です。お亡くなりになるまで支部長を務められ、JAC に尽力された方です。大島亮吉の『先蹤者』で著者のプロフィール写真を撮影している方でもいらっしゃいます。この本は「さんけん」にも置いてあるので、是非、手に取ってみてください。伊藤さんはお父様の写真の裏に穂高の写真を貼って、一緒に山登りを楽しんでいらっしゃいます。「さんけん」の玄関に吊るしてある鐘は福島支部から寄贈されたものです。とってもいい音がします！福島支部の山への思いと共に響きますように！！
山研委員　山下

７月 23 日午後６時半ごろ、行方不明者の捜索にあたっていた富山県警のヘリコプター「つるぎ」が、剱岳の標高 2800 メートル付近の岩場で女性の遺体を発見しました。現場は剱岳山頂付近の八ツ峰の７峰と８峰の間で、女性の遺体は登山ルートから 10 メートルほど下の雪渓と岩との間で引っ掛かったリュックサックとともに見つかりました。警察によりますと、死因は多発骨折による外傷性ショックとみられ、女性が登山の途中で滑落したものとみています。
ネット検索記事より

当時の集合写真。後列左端が山下さん、中央佐藤(一)、右端が山研管理人の内野さん
前列左から渡部(展)、伊藤義男、菊池道彦(故人)の福島支部会員